

平成22年新年のご挨拶



(社)全国土木施工管理技士会連合会会長 小林 康昭

新年明けましておめでとうございます。

土木施工管理技士会の会員の皆様方には、常日頃から私ども連合会の活動に対して深いご理解・ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

このところ公共事業費が削減を受けるなど、建設の分野では大変厳しい状況が続いております。その一方で、公共事業に対するニーズの変化や品質確保法の施行などの面では、土木施工管理技士を取り巻く環境も変化しております。こうした変化に対応して現場における技術者のあり方も、変化を余儀なくされる状況になっております。

このために連合会では、平成18年度に続き21年度においても3年に1度の技士に対するアンケートを実施して、実際の現場で活動している技士会会員や現場技術者の声がどのように変化しているかを把握すべく努めてまいりました。またこの結果を発注者にお伝えする貴重な機会として、意見交換会を特に重視しております。調査結果によりますと提出書類が過度に多量かつ煩雑であることや設計変更のプロセスなどに感じられる不合理や不透明ぶりについて現場における窮状の声が、多々聞かれました。発注者受注者でパートナーシップを組み、こうした点を改善することにより、よりよい公共事業の推進環境を作っていくと考えております。またアンケートによる現場技術者の声を活かすべく、中長期的な技士会連合会のあり方も含めて検討して参りたいと考えております。

連合会は、これまで技術者の研鑽を積む姿勢を現すため、そして技術力を適切に評価する指標として継続学習制度(CPDS)の普及に力を入れて参りました。そうした努力の甲斐があつて、今で

は地方整備局を初め多くの行政庁で、CPDSを行政上の技術評価項目として採用していただいておりますことはご同慶に耐えないところであります。この結果平成21年10月現在はCPDS加入者が約11万名に増加し、それに伴い技士会の会員数も全体では20年度の約82,000名から21年度には、92,000名に増えております。しかし一部の技士会では会員は増えたものの、一方では会員の減少が続いている技士会も多く、連合会も今後一層、活動の充実を図るべく、適切に対処することが大変重要であると考えております。

監理技術者講習に関しては苦戦している技士会も一部には見受けられますが、今後も連合会としてPR等に力を入れてなお一層の普及と充実をはかっていくつもりであります。平成22年度は受講者数の見込みが5年周期のピークから下がる時期にあたりますが、一層の引き締めを図ってまいりたいと思います。そのためにも、いまだ監理技術者講習を開催していない技士会は、是非とも開催のご検討をいただきたく、ご理解とご協力のほどお願いいたします。

土木施工管理技士は、国土建設の最前線の主役であります。公共事業に関して逆風の吹く折から、施工管理技士に関する長期的な展望を見出し、技士会と協力して今後さらに活動を充実させることによって、会員技士一人ひとりが「入会して良かったと思える技士会」と認識していただけるように、一層の努力を続けてまいり所存であります。今後とも土木施工管理技士会会員の皆様の温かいご支援、ご協力を、切にお願い申し上げます。最後になりましたが、本年が皆様にとりまして輝かしい出発の年となりますことを心より祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。